

喫煙はがん、慢性閉塞性肺疾患の原因となるとともに、虚血性心疾患等の血栓性疾患の重大なリスクであり、我々の健康に悪影響を及ぼす。そして禁煙によって健康への悪影響は改善することが広く知られている。血栓形成には、凝固、血液、血管壁の三要素が関与するが、喫煙は凝固性を亢進させ、血管壁で血栓形成を抑止している血管内皮細胞を傷害することで、血栓形成を助長する。受動喫煙についても健康への悪影響は明らかとなっている。以上より、日本血栓止血学会は、血栓性疾患の発生を予防すること等を通じて、国民の健康を守るため、禁煙を行き直らせることをここに宣言する。

具体的な行動目標

日本血栓止血学会は以下の活動を通じて禁煙を推進します。

1. 本学会は禁煙の啓発活動を行い、血栓性疾患の予防を推進します。
2. 本学会のすべての学会員が、喫煙の健康への悪影響と禁煙の重要性を理解し、非喫煙者であることをめざします。
3. 本学会は喫煙の血栓促進機構と禁煙の影響について、科学的解明を推進します。